ナヴァラトリー、デーヴィーの祝祭
2026 年 10 月 11 日（日）～ 10 月 20 日（火）

ナヴァラトリーは「九夜」を意味し、インド中で何世紀も行われてきたお祭りです。ナヴァラトリーは、デーヴィー、つまり偉大な女神や神聖なる母、あらゆるものに浸透しているシャクティをたたえるものです。

インドでは、二つの主なナヴァラトリーのお祭りがあります。一つはチャイトラ・ナヴァラトリーで、西半球の春に行われます。もう一つは、より広く祝われるシャラド・ナヴァラトリー、またはマハーナヴァラトリーです。それは、初秋の最初の新月に始まり、10 日目のダセーラの祝祭で最高潮に達します。シッダ・ヨーガの道で私たちが祝うのは、この2回目のナヴァラトリーです。

デーヴィーの栄光を称賛し、そして彼女の勝利――エゴや無知が取るさまざまな姿を象徴する悪魔の軍隊に対する勝利――の物語を伝えるたくさんの教典があります。そのような文献の一つが『デーヴィー・マーハートゥミヤ』で、『マールカンデーヤ・プラーナ』の中にあり、ナヴァラトリーの伝統を詳しく述べています。この物語の中で、デーヴィーのすべての形を包含する女神ドゥルガーは、恐ろしい水牛の悪魔マヒシャースラを含む数多くの悪魔と、9日間にわたり闘います。女神ドゥルガーは 10 日目、すなわちダセーラに、暗闇に対する光、悪に対する善の勝利をもって、悪魔たちを打ち破ります。

ナヴァラトリーのハイライトの一つは、夜に行われるデーヴィーの礼拝の一部としてのガルバの踊りです。人々はグループになって、デーヴィーの光を表すガルバの炎の周りで同心円を描いて踊ります。人々は踊りながら、ダンディヤと呼ばれる鮮やかな色に塗られ、房や他の装飾品で飾られた小さな棒を、リズミカルにたたきます。

ナヴァラトリーの間、シッダ・ヨーギたちは、デーヴィーのその三つの姿――ドゥルガー、ラクシュミー、そしてサラスワティー――を崇拝します。デーヴィーの取る姿はそれぞれ、探究者が自分自身の本質である光を体験し、養うことを支えます。そして、この祝祭の9夜と10日にわたって、シッダ・ヨーギは「ジャヤ・デーヴィー・アーラティー」を歌うことで、さまざまな姿で現れる女神をたたえます。

2026年、太陰暦に基づく祝祭であるナヴァラトリーは、10月11日から10月20日にかけて行われます。



10月11日～13日

ナヴァラトリーの最初の三夜は、 無知を打ち消すデーヴィーの姿である女神ドゥルガーをたたえます。ドゥルガーは、トラにまたがり、神聖な武器を構え、彼女の激しさと穏やかさの両方の顔で、描かれています。彼女は私たちの内側の敵を打ち負かし、私たちの勇気を強くします。私たちが彼女の祝福を求める時、私たちが精神の道を歩み通すことができるように、彼女は私たちが恐れと無知を克服するのを助けます。

シッダ・ヨーガの道において、ナヴァラトリーの祝祭の多くのハイライトの一つは、ナーマサンキールタナ――「カーリ・ドゥルゲー・ナモー・ナマー」をチャンティングすること――を通して、女神ドゥルガーの力を呼び起こすことです。

10 月 14 日～16 日

ナヴァラトリーの次の三夜は、豊穣（ほうじょう）、美、そして吉兆の女神であるシュリー・ラクシュミーをたたえます。彼女はしばしば、ハスの花の中に立ち、あるいは座り、開いた手のひらから金貨が流れ落ちている姿で描かれます。私たちが女神ラクシュミーに祈願し、私たちの中に彼女の恩恵を呼び起こす時、彼女は物質面と精神面、両方における富を授け、寛大さを鼓舞し、そして私たちの内側と周囲の世界に、豊かさと美しさを認識するように私たちを助けます。

女神ラクシュミーは数多くの名前と姿を持っています。それらのうちの八つの姿は、シュリー・アシュタラクシュミーという名前で知られ、詳しくはこちらから読むことができます。シッダ・ヨーギがラクシュミーを呼び起こす一つの方法は、「シュリー・マハーラクシュミヤシュタカム・ストートラム」の美しい賛歌を朗唱することです。

10 月 17 日～ 19 日

終盤の夜は、英知 、創造力そして芸術表現の具現である女神サラスワティーをたたえます。白い衣を身にまとい、片手にヴェーダを持ち、この姿の女神は純粋さと私たちの内側の知識の光を表しています。もう一方の手には、弦楽器のヴィーナーを持っています。これは、内なる大いなる自己から湧き出る、常に新しく、常に再び満ちる創造のインスピレーションを象徴しています。女神サラスワティーを崇拝することは、学ぶこと、崇高な思考、そして雄弁かつ真実を話すことを培います。彼女は、音楽家、芸術家、作家、そして学生たちに霊感を与える存在です。



10 月 20 日――ダセーラ

ナヴァラトリーの祝祭は、ヴィジャヤーダシャミーとしても知られるダセーラ――10 日目、ナヴァラトリーの九夜の後の勝利の日――で最高潮に達します。ダセーラは、悪魔マヒシャースラに対する女神の勝利を表し、至高なる光が広く行き渡ることを象徴します。

勝利の日としてのダセーラは、他のインドの教典や文献にも同様に表されています。叙事詩、『ラーマーヤナ』によると、この日は、ラーマ神が 10 の頭を持つ悪魔ラーヴァナを打ち負かした日です。

『マハーバーラタ』では、ダセーラはパーンダヴァ兄弟が 13 年間の国外追放から自らの王国に戻り、正義を世界に再確立した日です。帰国に伴い、パーンダヴァたちは武器を取り戻し、それらの武器にプージャーを行いました。従って、ダセーラでは、自分たちの職業の道具に敬意を表すのが伝統となっています。

ダセーラは、1年で最も吉兆な3日半のうちの1日であると考えられています。(インドでは、吉兆な昼と夜は、伝統的な分単位による太陰暦、パンチャーンガにより決定されます)。このため、この日は、特に知識、芸術、音楽などのプロジェクトを開始するのに、最も好ましい日の一つです。新しい始まり、新鮮なスタートの日であり、天が私たちの新たな努力の成功を支えて、とりわけ豊富な黄金色の祝福を注いでくれるようです。

ジャヤ・デーヴィー！　神聖な光に勝利を！　ダルマに勝利を！



© 2026 SYDA Foundation®. 著作権所有。